

<b>Teacher(s)</b> 担当教師	永井 涼子 NAGAI Ryoko	<b>Subject group and discipline</b> 教科と領域	言語と文学（国語） Language & Literature (Japanese Language)		
<b>Unit title</b> 単元名	言葉の架け橋 — “訳” の挑戦を探究する—	<b>MYP year</b> 学年	3 (中 2Grade 8)	<b>Unit duration (hrs)</b> 授業時間数	25

重要概念 (Key concept)	関連概念 (Related concept(s))	グローバルな文脈 (Global context)
つながり Connections	受け手側の受容	個人的表現と文化的表現 Personal and cultural expression 探究例 Exploration：アイデアや領域
<b>探究テーマ (Statement of inquiry)</b>		
文学作品は、受け手側の受容を考慮した表現を探究することで、その価値が広く長くつながり、発展していく。		
<b>探究の問い (Inquiry questions)</b>		
<p>事实的 (Factual) —古文や漢文の読み方にはどのような規則性があるのか。</p> <p style="padding-left: 40px;">各テキストはどのような文脈の中で生まれたのか。</p> <p>概念的 (Conceptual) —訳はもとの作品の伝えたいことにどの程度まで近づけるのか。</p> <p style="padding-left: 40px;">訳がなされた時代や社会の文脈は、訳の表現にどの程度影響を与えるのか。</p> <p>議論的 (Debatable) —訳を理解すれば、原文の作品を理解したことになるのか。</p> <p style="padding-left: 40px;">文学作品が長く、広く読み継がれるためには何が必要か。</p>		

目標 (Objectives)	総合的評価 (Summative assessment)	
<p><u>基準 A : 分析 Criterion A : Analyse</u></p> <p>i. テキストの内容、文脈、言語、構造、技法、およびスタイル (文体) と、複数のテキスト間の関係性を特定し説明する。</p> <p>ii. 作者の選択が受け手に与える効果を特定し説明する。</p> <p><u>基準 B : 構成 Criterion B: Organising</u></p> <p>ii. 意見や考えを、持続的で一貫性のある、論理的な方法で整理する。</p> <p><u>基準 C : 創作 Criterion C: Producing text</u></p> <p>i. 創造的プロセスへの個人的な関わりから生じる新しいものの見方や考え方を探究し検討しながら、思考、想像力、感受性を示すテキストを創作する。</p> <p>ii. 言語的、文学的、視覚的な表現の観点から、受け手の与える影響を認識したスタイル (文体) を選択する。</p> <p><u>基準 D : 言語の使用 Criterion D: Using language</u></p>	<p>評価規準を含む総合的評価課題の概要：</p> <p>GOAL(目的・ゴール)</p> <p>自分が不自由なく使える言語以外で書かれた文学作品を学ぶ際、小学校課程及び中学校課程においては、ほとんどの場合“訳”を参照する。それは外国語の作品のみならず、古典文学を学ぶ際も例外ではない。しかし、訳には必ず訳者の解釈や意図が反映されるため、原文は同じでも訳者ごとに異なる訳がなされうる。訳はあくまで訳であって、限界があることを理解した上で、それでも訳があることで文学作品は長く広く読み継がれてきたことを認識し、自分の言語文化にも、異なる言語文化にも、親しみ、尊重する態度を育てたい。</p> <p>ROLE(自身の役割)</p> <p>書評家</p> <p>『枕草子』の現代語訳を含む複数の本を比較・検討し、その中から一冊を選び、書評を書く。</p> <p>AUDIENCE(相手・対象)</p> <p>書評の読者</p> <p>SITUATION(状況設定)</p> <p>書評家として、出版社から古典文学の継承を目的とした「枕草子」の現代語訳の書評の執筆を依頼された</p> <p>PERFORMANCE(完成作品)</p> <p>書評</p> <p>STANDARDS(観点・含むべきもの)</p> <p>基準 ABCD</p>	<p>総合的評価課題と探究テーマとの関係：</p> <p>生徒たちにとって、古典作品が古典独特の言葉と文法で書かれていることが、作品に親しみ、そこに表れているものの見方や考え方を知らずの妨げになっていると思われる。しかしながら、現行の教科書には、ほぼ例外なく現代語訳または語注がついている。それがあってなお、生徒から「現代文はわかってても古典がわからない」という声上がるのはなぜなのか。それは、生徒たちにとって、古典作品で描かれる話は「自分とは異なる世界の話」で、たとえ現代語であっても、言葉からその世界観を具体的にイメージできないからではないか。そこでまず「論語」「枕草子」を読むにあたり、教科書以外の資料も提示しながら、時代背景や作者及び登場人物の人物像をしっかり把握させ、なぜその作品が生まれたのか、どのような意図で書かれたのかということを生徒たちに考えさせたい。</p> <p>その上で、複数の現代語訳を読み比べ、それぞれの現代語訳がどのような点で作品の伝承に貢献しているのか、作品の世界観をどの程度反映しているのか、限界はどのような点にあるのか、といったことについて考察し、読み比べた物の中から一冊を選び、書評家になりきって書評を書くという言語活動を行う。この活動を通じて、訳はあくまで訳であって、限界があることを理解した上で、それでも訳があることで文学作品は長く広く読み継がれてきたことを認識し、自分の言語文化にも、異なる言語文化にも、親しみ、尊重する態度を育てたい。さらに、この活動を通じて、生徒に、作品は読み手を意識し</p>

<p>i. 適切で多様な語彙、構文、表現形式を使用する。</p> <p>ii. 適切な言語使用域（レジスター）とスタイル（文体）で書き、話す。</p> <p>iii. 正しい文法、統語法、句読法を用いる。</p>		<p>て作られていることを理解させ、今後の自分の創作活動につながる表現力を育てたい。</p>
--	--	--

**学習の方法 (Approaches to learning (ATL))**

【批判的思考 Thinking: Critical thinking】  
 翻訳を比較し、その妥当性について、様々な観点を考慮して判断する。Compare translations and judge their validity from various perspectives.

【転移 Transfer】  
 外国語学習や、日常生活の中にある翻訳場面に結び付ける。Connect to foreign language learning and translation scenes in daily life.

行動：探究を通じた指導と学習 Action: Teaching and learning through inquiry

内容 (Content)	学習過程 (Learning process)
<p><b>第1次 (2時間)</b></p> <p>① 単元全体及び総括的評価課題（パフォーマンス課題）の説明を受け、導入として、絵本「大きな木」の翻訳の読み比べをする。</p> <p><b>第2次 (9時間) Second(9 hours)</b></p> <p>② 漢文の基礎知識を知る。</p> <p>③ 『論語』3編「子曰学而時習之」(学而)、「子曰己所不欲」(顔淵)、「子曰知之為知之」(為政)の内容を理解する。</p> <p>④孔子やその弟子及び論語についての知識や孔子の生きた時代についての理解を深める。</p>	<p><b>学習経験と指導方策</b></p> <p>①—1 総括的評価課題について理解する。</p> <p>①—1～2 絵本「大きな木」の原文と翻訳二種の読み比べを行い、同じ原文をもとにしても、訳者によって異なる訳がなされ、それにより読み手が受ける印象が異なることに気づく。</p> <p>② 漢文の訓読法について、基本的な知識を身につける。</p> <p>③—1～3 『論語』3編「子曰学而時習之」(学而)、「子曰己所不欲」(顔淵)、「子曰知之為知之」(為政)の内容を、教科書掲載の和訳を参照しながら、理解する。</p> <p>④—1～2 今後の学習に繋がられるよう、孔子やその弟子及び論語についての知識や孔子の生きた時代についての理解を深める。</p> <p>⑤「子在川上曰」(子罕第九)について、漢和辞典を用いて和訳する。</p>

<p>⑤『論語』「子在川上曰」(子罕第九)を和訳する。</p> <p>⑥「子在川上曰」の古注と新注を比較し、妥当性について検討する。</p> <p><b>第3次(7時間) Second(7 hours)</b></p> <p>⑦ 歴史的仮名遣いの復習を行い、「枕草子」(「春はあけぼの」)を音読する。</p> <p>⑧「枕草子」(「春はあけぼの」)について、作者のものの見方や考え方をとらえる。</p> <p>⑨「枕草子」(「うつくしきもの」)について、音読ののち、教科書掲載の語注をもとに内容を理解する。</p> <p>⑩「枕草子」(「雪のいと高う降りたるを」)について、音読ののち、示された語注をもとに内容を理解する。</p> <p>⑪「枕草子」の作者である清少納言や、「枕草子」が書かれた時代や書かれた意図について、資料を読み、理解する。</p>	<p>⑥—1～2「子在川上曰」の古注と新注を比較し、妥当性について検討する。</p> <p>⑦ 歴史的仮名遣いの復習を行い、「枕草子」第一段を音読する。</p> <p>⑧—1～2「枕草子」(「春はあけぼの」第一段)について、教科書掲載の現代語訳をもとに理解し、「古今和歌集」から授業者が作成した資料と比較しながら、作者のものの見方や考え方をとらえる。</p> <p>⑨「枕草子」(「うつくしきもの」第一四五段)について、音読ののち、教科書掲載の語注をもとに内容を理解する。</p> <p>⑩「枕草子」(「雪のいと高う降りたるを」第二八〇段)について、音読ののち、示された語注をもとに内容を理解する。</p> <p>⑪—1～2「枕草子」の作者である清少納言やその周辺の人物、「枕草子」が書かれた時代や書かれた意図について、資料を読み、理解する。</p> <p>⑫総括的評価課題(パフォーマンス課題)を確認したのち、「枕草子」既習の三つの章段について、三種類の現代語訳(原文により忠実なもの【清少納言著・河添房江・津島知明訳注『新訂 枕草子 上・下 現代語訳付き』角川ソフィア文庫、2024年】、超訳的なもの【清少納言著・八篠忠基翻訳『なりきり訳 枕草子 平安の衣食住を知らば古典がわかる』淡交社、2021年】、コミカライズされたもの【平田善信監修・森有子マンガ『教科書にでてくる古典 マンガでさきどり 枕草子』くもん出版、2019年)を読む。</p> <p>⑬既習の章段についての異なる三種類の現代語訳を読み、その特徴や表現の効果及びその限界について考察する。方法としては、まず、班内で章段を分担し、それぞれが担当の章段を用いて考察するものとする。個人での考察の後、同一の章段を用いて考察した者同士で集まり、考えを共有し、自分の考えを広げたり深めたりする。その後、もとの班に戻り、自分の担当の章段から見えてきた、三種類それぞれの現代語訳の特徴及び表現の効果や限界について、共有する。</p> <p>⑭—1～2 前時の考察について全体で共有し、「古典」が読み継がれるために必要なことを考える。</p> <p>⑮パフォーマンス課題に取り組むにあたり、実際の書評を読み、表現や構成の工夫について考える。</p> <p>⑯—1～2 読み手を意識したパフォーマンス課題(書評)に取り組み、完成させる。</p>
<p><b>第4次(7時間) Second(7 hours)</b></p> <p>⑫総括的評価課題(パフォーマンス課題)を確認したのち、「枕草子」既習の三つの章段について、三種類の現代語訳(一般的なもの・超訳的なもの・コミカライズされたもの)を読む。</p> <p>⑬前時に提示した三種類の現代語訳について、既習の章段を用いて考察する。班内で章段を分担し、それぞれが担当の章段を用いて考察するものとする。個人での考察の後、同一の章段を用いて考察した者同士で集まり、考えを共有する。その後、もとの班に戻り、自分の担当の章段から見えてきた、</p>	<p><b>形成的評価 Formative assessment</b></p> <p>・OPP</p> <p>ワンページポートフォリオを毎時書かせ(本時で一番大切だと思ったこと等)、提出させることにより、生徒自身にメタ認知をさせ、また、必要に応じてその記述内容に対し、軌道修正を促す。</p>

<p>三種類それぞれの現代語訳の特徴及び表現の効果や限界について、共有する。</p> <p>⑭前時でそれぞれが担当した現代語訳についての考察を班内で共有し、「古典」が読み継がれるために必要なことを考える。</p> <p>⑮実際の書評を読み、表現や構成の工夫について考える。</p> <p>⑯パフォーマンス課題（書評）に取り組み、完成させる。</p>	<p>・観察</p> <p>班での交流における発言からの理解度や、級友の意見を聞いて自分の考えにつなげようとする取り組み姿勢の評価。</p> <hr/> <p><b>指導の差異化 Differentiation</b></p> <p>班や全体での交流活動を多く設定し、他者の考えを聞く機会を多く設定することで、自分の考えを言葉で表現するのが苦手な生徒の一助とする。</p> <p>日本語の苦手な生徒へは漢字の読みのサポート資料を与えるなど、個の特性に応じた指導を施す。</p>
--	--

**資料 Resources**

教科書教材（『論語』『枕草子』）／シェル・シルヴァスタイン作・絵、本田錦一郎訳『おおきな木』篠崎書林、1976年／シェル・シルヴァスタイン作・絵、村上春樹訳『おおきな木』あすなろ書房、2010年／吉川幸次郎『論語』（上・下）、角川ソフィア文庫、2020年／本間康司 絵と文、越田年彦 執筆・監修『世界の思想家ガイドブック 覚えておきたい人と思想100人』清水書院、2014年／春日井明監修、石井溪漫画『学習漫画 中国の歴史 I 中国文明のあけぼの』集英社、2006年／春日井明監修、阿部高明漫画『学習漫画 中国の歴史 5 宋王朝と北方民族の興隆』集英社、2006年／高田祐彦『新版 古今和歌集 現代語訳付き』角川ソフィア文庫、2009年／清少納言著・八篠忠基翻訳『なりきり訳 枕草子 平安の衣食住を知れば古典がわかる』淡交社、2021年／清少納言著・河添房江・津島知明訳注『新訂 枕草子 上・下 現代語訳付き』角川ソフィア文庫、2024年／平田喜信監修、森有子マンガ『教科書にでてくる古典 マンガでさきどり 枕草子』くもん出版、2019年／山本淳子『枕草子のたくらみ 「春はあけぼの」に秘められた思い』朝日新聞出版、2017年

振り返り：探究の計画と過程，影響を考察する Reflection: Considering the planning, process and impact of the inquiry

単元の指導前 Prior to teaching the unit	単元の指導中 During teaching	単元の指導後 After teaching the unit
<p>学習者の漢文への理解について、既習事項は以下の通りである。</p> <p>現行の小学校学習指導要領では、第5学年及び第6学年の内容として、音読などを通して、言葉の響きやリズムに親しむことが挙げられている。加えて、古典について解説した文章を読んだり作品の内容の大体を知ったりすることを通して、昔の人のものの見方や感じ方を知ることが挙げられており、古典への興味・関心を深めるようにすることが重要とされている。</p> <p>小学校での学習を受けて、中学校学習指導要領では、第一学年の内容として、訓読の仕方を知り、音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しむことが挙げられ、第二学年の内容では、作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しむことに加え、現代語訳や語注などを手掛かりに作</p>		

<p>品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を知らることが挙げられている。</p> <p>生徒は、小学校での学習に加え、中学校では、一年生時に「竹取物語」「故事成語」などを通じて、歴史的仮名遣いをはじめとする文語の決まりを学習している。また、二年生である今年度は、一学期に「平家物語」の祇園精舎及び敦盛の最期を通して、音読することで語り物としての特徴を実感したり、敦盛及び熊谷の生き方を通して武士としてのものの見方や考え方について学習したりしている。</p>		
--	--	--